

第四次長岡市環境基本計画

(骨子案)

平成 29 年 9 月

長 岡 市

目 次

第 1 章 計画の基本的事項	1
1 計画改訂の背景・目的	1
(1) 計画改訂の背景	1
(2) 計画の目的	2
2 計画の位置づけ	3
3 計画の期間	3
4 計画の構成	4
5 環境のとらえ方	5
(1) 対象となる環境の範囲	5
(2) 各主体の基本的な役割	5
第 2 章 環境の現状と課題	6
1 環境をとりまく状況	6
2 環境の現状	6
3 環境の現状と課題の整理	6
第 3 章 計画の目標	7
1 基本理念と望ましい環境像	7
2 施策の体系	8
第 4 章 基本理念の実現に向けた取組	10
1 実現に向けた施策	10
2 評価指標	12
第 5 章 環境配慮指針	14
1 市民の取組	14
2 事業者の取組	14
3 市（行政）の取組	14
第 6 章 計画の推進	15
1 計画の推進体制	15
2 計画の進行管理	15

第 1 章 計画の基本的事項

1 計画改訂の背景・目的

(1) 計画改訂の背景

本市では、長岡市環境基本条例第 8 条の規定に基づき、多様な環境問題に対応する具体的な行動指針を定めた長岡市環境基本計画を平成 8 年に決めました。その後、計画期間の満了に伴い、平成 15 年 3 月に第 2 次計画、平成 20 年 3 月に第 3 次計画へ改訂を行いました。特に第 3 次計画においては、平成 17 年度から平成 18 年度にわたり平成の大合併を行ったことにより市域が山岳地帯から海岸線まで広範となり、多様な地域特性、自然環境を有した都市へと生まれ変わったことを踏まえ、「新長岡市」における様々な環境課題に対応するため計画の見直しを行い、環境に配慮した取り組みを推進してきました。

しかし、近年、地球温暖化に起因すると考えられている記録的集中豪雨の頻発など地球規模での気候変動が観測されており、2015 年 11 月にパリで開催された国連気候変動枠組条約第 21 回締約国会議（COP21）では、温室効果ガス削減等についての新たな国際的枠組みが合意されるなど、地球温暖化への対応が地球規模での課題となっています。

加えて、生物多様性損失への懸念や微小粒子状物質（PM2.5）に代表される大気環境の改善など、取り組むべき課題が山積しています。

このような状況を踏まえ、「第四次長岡市環境基本計画」（以下、「本計画」という。）は、本市を取り巻く環境の現状や課題を改めて把握し、これまでの環境に関する取組の評価を鑑むとともに、深刻化する環境問題に対応するため、今後 10 年間を見据えた計画の改訂を行います。

(2) 計画の目的

本計画は、長岡市環境基本条例第8条に基づき、環境の保全及び創造に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図ることを目的としています。

長岡市環境基本条例（抜粋）

(目的)

第1条 この条例は、健全で恵み豊かな環境の保全及び潤いと安らぎのある環境の創造(以下「環境の保全及び創造」という。)について、基本理念を定め、並びに市、事業者及び市民の責務を明らかにするとともに、環境の保全及び創造に関する施策の基本となる事項を定めることにより、これらの施策を総合的かつ計画的に推進し、現在及び将来の市民の健康で文化的な生活の確保に寄与することを目的とする。

(基本理念)

第3条 環境の保全及び創造は、市民が健康で文化的な生活を営む上で必要な環境を確保し、これを将来の世代に引き継ぐことができるように適切に行われなければならない。

2 環境の保全及び創造は、市、事業者及び市民の自主的かつ積極的な取組によって行われなければならない。

3 環境の保全及び創造は、環境への負荷の少ない循環を基調とする社会が構築されるように行われなければならない。

4 環境の保全及び創造は、人と自然及び人と文化との豊かな触れ合いが確保されるように行われなければならない。

5 地球環境保全は、市、事業者及び市民が地域における事業活動及び日常生活の地球環境に及ぼす影響を認識し、それぞれの事業活動及び日常生活において積極的に推進されなければならない。

(環境基本計画)

第8条 市長は、環境の保全及び創造に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、長岡市環境基本計画(以下「環境基本計画」という。)を定めなければならない。

2 環境基本計画は、次に掲げる事項について定めるものとする。

(1) 環境の保全及び創造に関する目標

(2) 環境の保全及び創造に関する基本的な施策

(3) 環境の保全及び創造に関する配慮のための指針

(4) 前3号に掲げるもののほか、環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項

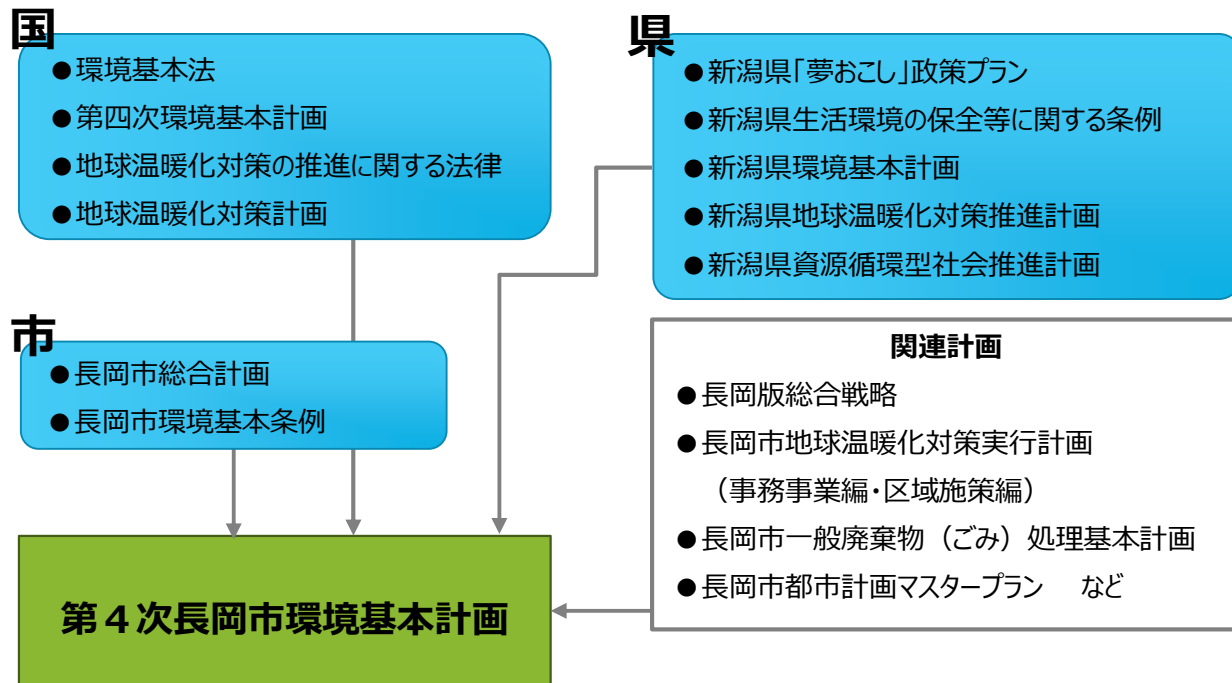
3 市長は、環境基本計画を定めるに当たっては、市民等の意見を反映するため、必要な措置を講ずるものとする。

4 市長は、環境基本計画を定めるに当たっては、あらかじめ、第21条に定める長岡市環境審議会の意見を聴かななければならない。

5 市長は、環境基本計画を定めたときは、速やかに、これを公表しなければならない。

2 計画の位置づけ

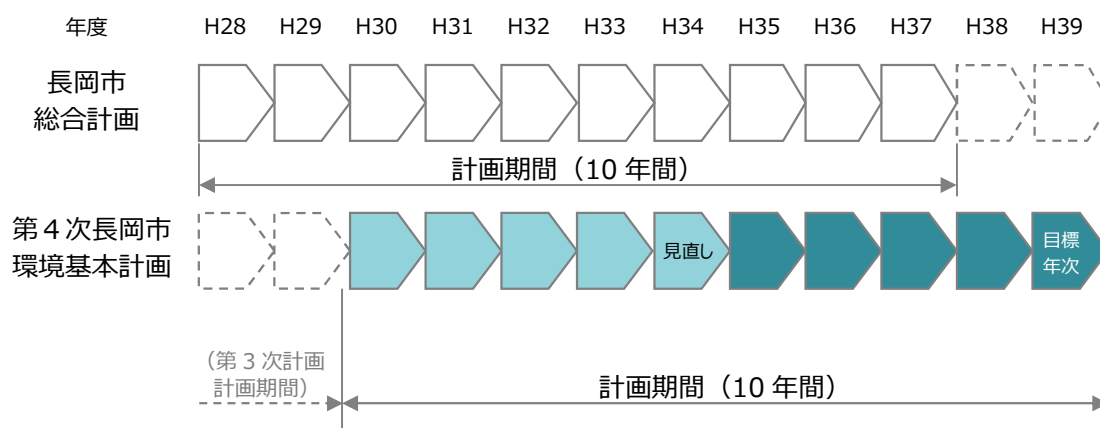
本計画は、国や県の環境基本計画を踏まえるとともに、長岡市総合計画（以下、「総合計画」という。）をはじめとする本市の諸計画の推進を環境面から実現する役割を担っています。



3 計画の期間

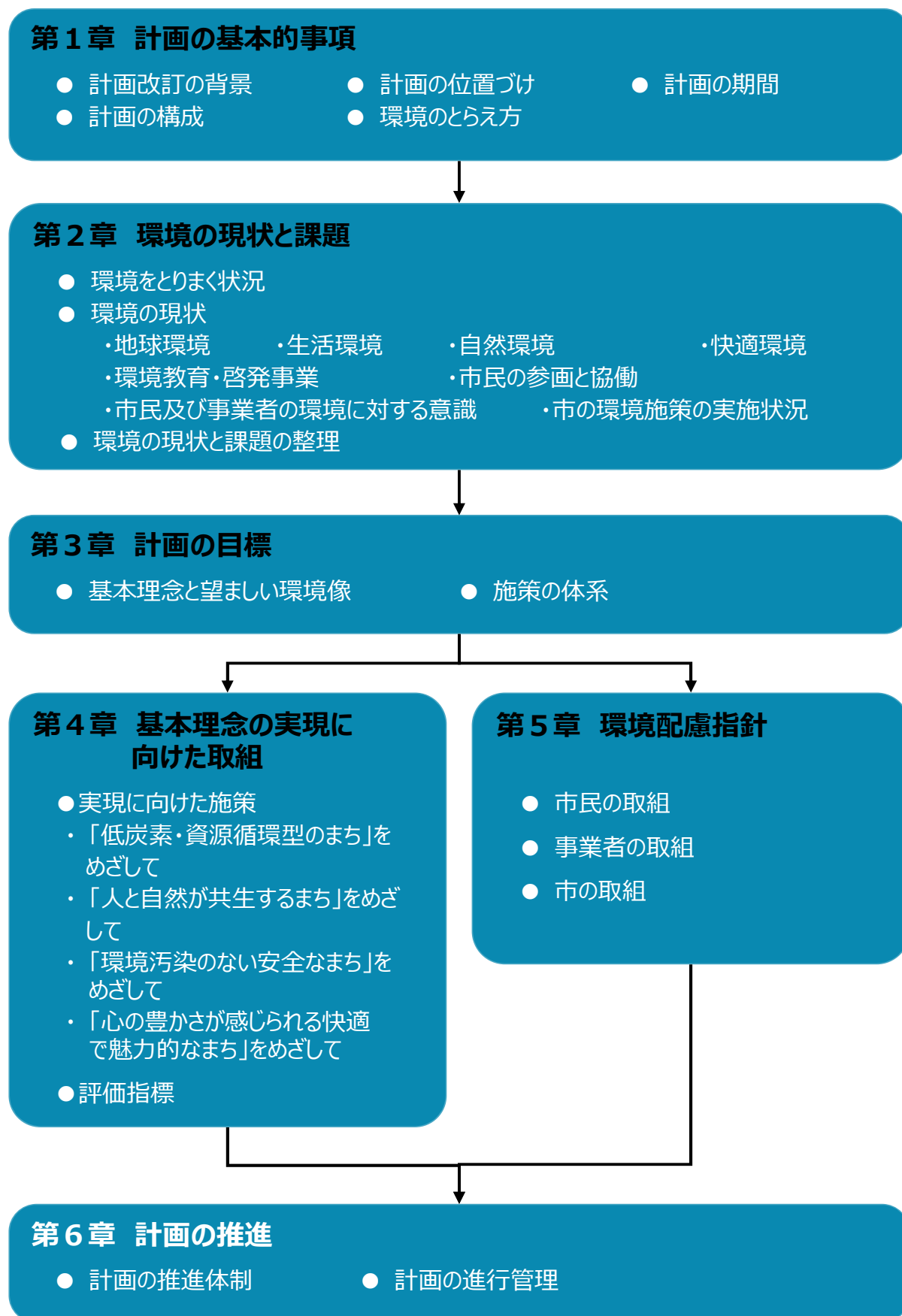
本計画の対象期間は、平成30年度から平成39年度までの10年間とします。

また、その間の社会情勢の変化に応じて柔軟な対応が必要であるため、施策や目標の進捗についての点検を毎年行うとともに、5年を目処にそれらを総括し、必要に応じ計画の見直しを行います。



4 計画の構成

本計画の構成は以下のとおりです。



5 環境のとりえ方

(1) 対象となる環境の範囲

本計画において対象としている環境の範囲は以下に示す4つの項目です。

環境の範囲	具体的な内容
地球環境	地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨（雪） 森林の減少、廃棄物の3R ^{※1} 、資源・エネルギー
生活環境	大気環境（大気汚染、悪臭、騒音・振動） 水環境（河川・海域の水質汚濁、地下水汚染） 土壌環境（土壌汚染、地盤沈下） 化学物質汚染、廃棄物処理
自然環境	地形・地質、生物多様性、植生・植物、動物、環境保全地域、 森林、農地、環境資源（野外レクリエーション施設など）
快適環境	身近な緑（公園、緑地、街路樹など）身近な水辺、 都市景観、光害

※1 3R：Reduce（減量化）、Reuse（再使用）、Recycle（再生利用）の略
むこと

(2) 各主体の基本的な役割

本計画における各主体の役割は以下に示すとおりです。

主体	役割
市民	市民は、良好な環境の下で健康で文化的な生活を営む権利を有するとともに、良好な環境を将来世代に継承する責務を負っています。そのため、日常生活を通じて省エネルギーやごみの減量・リサイクルなど、環境への負荷の少ない行動に努めるとともに、地域などにおいて自発的な活動に取り組むように努めます。
事業者	事業者は、自らの事業活動が環境に与える影響が大きいことを認識し、公害防止や廃棄物の排出抑制、地球温暖化対策、開発事業に伴う環境への配慮に最大限の努力をはらうとともに、地域社会の一員として、環境への負荷の少ない社会の形成に努めます。
市	市は、市民の参画と協働のもとに、より良い環境づくりを進める中心的な役割を担っています。そのため、市民や事業者の模範となるよう、市自ら率先して環境への負荷の少ない行動をとらなければなりません。市が自ら行う施策については、構想、計画及び実施のそれぞれの段階において、環境への配慮を組み込んで施策を行います。また、市民、事業者に対して、環境に関する情報の提供や市民、事業者が行う環境への負荷の少ない自発的な活動の支援を行います。

第2章 環境の現状と課題

1 環境をとりまく状況

検討中

(自然条件や社会条件など、本市の環境をとりまく状況について整理)

2 環境の現状

検討中

(「地球環境」「生活環境」「自然環境」「快適環境」「環境教育・啓発事業」「市民の参画と協働」の区分について、現在の環境の状況、市民の意識、市の施策の進捗状況、今後に向けた課題について整理)

3 環境の現状と課題の整理

検討中

(環境の現状と課題を整理し、課題の解決に向けた今後 10 年間で推進すべき環境施策の方向性を抽出)

第3章 計画の目標

1 基本理念と望ましい環境像

第3次計画では、近年の社会経済活動の拡大や物質的に豊かな生活様式の定着に伴う過剰な資源採取、廃棄物の大量発生によって従来の地域が限定された環境汚染から、地球規模での環境問題が懸念されていることを踏まえ、基本理念を良好な本市の環境を保全・創出し、将来世代と共有することとしました。

第3次計画を策定してから9年が経過し、この間、地球温暖化や生物多様性の喪失、資源や食料需給のひっ迫といった地球規模での環境問題が深刻化するとともに、世界規模でこれらへの対策が進められています。また、国内では、東日本大震災の発生に伴う再生可能エネルギーの導入拡大をはじめとした国のエネルギー政策の見直しへの対応、少子高齢化の進展に伴う本格的な人口減少社会の到来といった、様々な課題が生じています。

私たちは、良好な環境の下で、健康で文化的な生活を営む権利を有していると同時に、良好な環境を私たち現在の世代だけではなく将来の世代へ引き継ぐという重大な責任を負っています。

このような認識に立って、本計画における基本理念及びその実現に向けた望ましい環境像は、第3次計画を踏襲し、以下のとおりとします。

■ 基本理念

「良好な環境の将来世代への継承」

■ 望ましい環境像

「低炭素・資源循環型のまち」

「人と自然が共生するまち」

「環境汚染のない安全なまち」

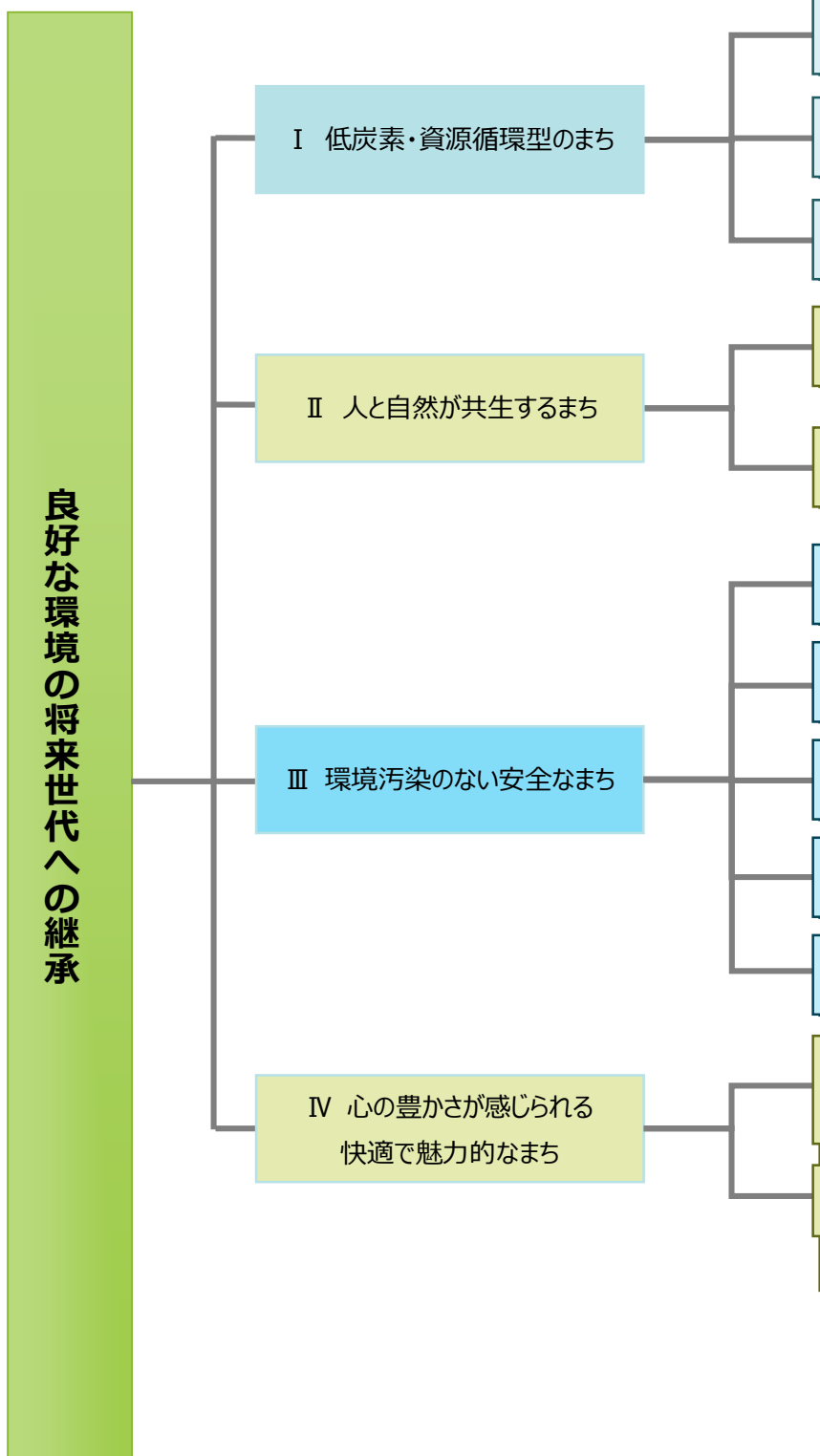
「心の豊かさが感じられる快適で魅力的なまち」

2 施策の体系

前述した本計画の基本理念及び環境像を実現するための施策の体系は、右に示すとおりです。

基本理念

望ましい環境像



施策の方向

施策

1 地球温暖化対策の推進	①地球温暖化緩和策の推進 ②地球温暖化適応策の推進
2 資源循環の推進	① 3 R の推進 ②省資源対策の推進
3 広域での取り組みへの協力	①オゾン層の破壊防止 ②森林の減少対策 ③広域的、国際的な取り組み
4 自然環境の保全と活用	①森林等自然の保全 ②農地、田園・里山の保全と活用 ③自然とのふれあいの推進
5 生物多様性の保全・管理	①貴重な生物の保全 ②外来生物への対策 ③野生鳥獣の保護管理
6 大気汚染・悪臭の防止	①自動車排ガス対策の推進 ②工場等発生源対策の推進 ③大気監視体制の充実 ④酸性雨（雪）対策
7 水質汚濁の防止	①生活排水・事業場排水対策の推進 ②化学物質対策の充実 ③河川の水質浄化対策の推進 ④水質監視体制の充実
8 土壌環境の保全	①土壌汚染監視体制の整備 ②地盤沈下防止対策の推進
9 静けさの保持	①交通騒音対策 ②近隣騒音対策 ③工場等の騒音・振動対策
10 廃棄物の適正処理	①一般廃棄物対策 ②産業廃棄物対策 ③ごみの不法投棄の防止と環境美化対策
11 快適で魅力的なまちの創造	①コンパクトシティの推進 ②都市緑化の推進 ③水辺空間の整備 ④都市景観の形成
12 環境に配慮した土地利用と開発の推進	①適正な土地利用 ②自然環境と調和する開発
13 人づくりの推進	①啓発事業の推進 ②環境教育の推進 ③環境情報の収集と提供
14 市民・事業者の参画と協働	①市民の取り組みの推進 ②事業者の取り組みの推進

V
協働で環境を未来につなぐ人づくり

第4章 基本理念の実現に向けた取組

1 実現に向けた施策

第3章で示した基本理念の実現に向けた施策について以下に示します。

(施策とりまとめイメージ)

I 低炭素・資源循環型のまちをめざして

■ 施策の方向1：地球温暖化対策の推進

① 地球温暖化緩和策の推進

- 再生可能エネルギーの導入
- 省エネルギーの推進
- 交通対策の推進
- 温室効果ガス吸収源対策の推進

② 地球温暖化適応策の推進

-
-

■ 施策の方向2：資源循環の推進

① 3Rの推進

-
-
-

② 省資源対策の推進

-
-
-
-

■ 施策の方向 3：広域での取り組みへの協力

① 酸性雨（雪）対策

- 酸性雨（雪）影響に関する情報収集
- 原因物質排出削減対策の推進

② オゾン層の破壊防止

- フロン類の適正処理の啓発

③ 森林の減少対策

- 古紙のリサイクルと再生紙の利用促進
- 森林の保全整備

④ 広域的、国際的な取り組み

- 広域的、国際的な取り組みへの参加

II 人と自然が共生するまちをめざして

検討中

- 施策の方向 4 自然環境の保全と活用
- 施策の方向 5 生物多様性の保全・管理

III 環境汚染のない安全なまちをめざして

検討中

- 施策の方向 6 大気汚染・悪臭の防止
- 施策の方向 7 水質汚濁の防止
- 施策の方向 8 土壌環境の保全
- 施策の方向 9 静けさの保持
- 施策の方向 10 廃棄物の適正処理

IV 心の豊かさが感じられる快適で魅力的なまちをめざして

検討中

- 施策の方向 11 快適で魅力的なまちの創造
- 施策の方向 12 環境に配慮した土地利用と開発の推進

2 評価指標

評価指標は、各施策の方向を代表する項目として、基準年度の値（現状値）と目標年度の値（目標値）を設定します。本計画の進捗状況の評価はこの数値で行うこととします。

I 低炭素・資源循環型のまちをめざして

（評価指標とりまとめイメージ）

■ 施策の方向1：地球温暖化対策の推進

項目名	現状値（基準年度）	目標値
温室効果ガス排出量	〇〇 t-CO ₂ (H〇年度)	〇〇 t-CO ₂

■ 施策の方向2：資源循環の推進

項目名	現状値（基準年度）	目標値
ごみ排出量	〇〇t (H〇年度)	88,407t

■ 施策の方向3：広域での取り組みへの協力

項目名	現状値（基準年度）	目標値
〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇

II 人と自然が共生するまちをめざして

検討中

- 施策の方向4 自然環境の保全と活用
- 施策の方向5 生物多様性の保全・管理

III 環境汚染のない安全なまちをめざして

検討中

- 施策の方向6 大気汚染・悪臭の防止
- 施策の方向7 水質汚濁の防止
- 施策の方向8 土壌環境の保全
- 施策の方向9 静けさの保持
- 施策の方向10 廃棄物の適正処理

IV 心の豊かさが感じられる快適で魅力的なまちをめざして

検討中

〔 施策の方向 11 快適で魅力的なまちの創造 〕

〔 施策の方向 12 環境に配慮した土地利用と開発の推進 〕

第5章 環境配慮指針

1 市民の取組

検討中

（環境を保全するため、市民が日常活動の中で
どのように環境へ配慮すべきかを示す）

2 事業者の取組

検討中

（環境を保全するため、事業者が事業活動の中で
どのように環境へ配慮すべきかを示す）

3 市（行政）の取組

検討中

（環境を保全するため、市（行政）が市の事務や事業の中で
どのように環境へ配慮すべきかを示す）

第6章 計画の推進

1 計画の推進体制

検討中

（計画を円滑に進めるための市内外における推進体制や役割を示す）

2 計画の進行管理

検討中

（計画を進めるにあたっての計画の進行管理方法を示す）